

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>校是の「進取」「敬愛」「雄健」の具現化を図り、地域から信頼される質の高い教育を実践することにより、自分の頭で考え、人と協働し、新たな価値を創造する人を育成する。そのために、</p> <p>① 自ら学ぶ姿勢を有し、自ら高みに挑戦する生徒を育て、学力の伸長を図る。</p> <p>② 特別活動等により、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図る。</p> <p>③ 生徒、教職員、保護者が一体となって、教育内容の質の向上を図る。</p> <p>④ 学研都市の資源を活用しながら、社会の一員としての自覚を持った生徒を育成し、文化学術研究を実践する学校づくりを進める。</p>	<p>◇ 生徒一人ひとりが目的意識を持って進路実現を果たした。今後は主体的・自立的に学習し挑戦する生徒の育成に向け、さらに教育力の向上を図る必要がある。</p> <p>◇ 難関大学進学に向けた組織体制の確立や学習・進路指導の展開については、昨年度の取組状況を十分点検し、より効果的な在り方を検討する必要がある。</p> <p>◇ 学校行事の内容充実をはじめ、中・短期の海外留学や国際交流、ボランティア活動等、生徒の主体的な活動が定着しつつある。</p> <p>◇ 生徒・保護者アンケートに基づき、冷暖房の運用基準や部局活動時間を見直すとともに、トイレの洋式化や中庭改修等の学校施設整備に取り組んだ。今後は物心両面において安心して教育を受けられるための環境づくりに努める必要がある。</p> <p>◇ 日常的な校務の増加や複雑化・困難化が進み、生徒と向き合う時間の確保が課題となっている。学習指導や進学指導等に集中できるための業務の適正化や生産性の向上が必要である。</p>	<p>① 個に応じた学習内容の提供及び思考力・判断力・表現力を育成するための指導方法の工夫改善やICTの利活用等、学習指導の充実のための研究・実践を行う。</p> <p>② 難関大学進学に向けた組織体制を確立し、効果的な学習・進路指導を展開する。</p> <p>③ 4つの奨励（部活動、国際交流、ボランティア、コンテスト）を継続し、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を増やす。</p> <p>④ 校内連携の強化により、中高一貫教育の円滑な実施と計画的な準備を進める。</p> <p>⑤ 内外の評価を活用し、生徒一人一人を大切にし、個性や能力を伸ばせるよう、学習者起点による学校の魅力化を図る。</p> <p>⑥ ダイバーシティとワークライフバランスに係る具体的な取組を進める。</p>

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			各項	総合	
教務部	学習指導の充実のための研究・実践を行う。	ICTを利活用した個に応じた学習内容の提供(アダプティブラーニング)について研究する。	B	B	平成31年度入学生の教育課程については、今後の環境の変化を踏まえ内容に変更を加えた。また、アダプティブラーニング及び思考力・判断力・表現力の育成につながる授業について、教務部内で議論することができた。
		思考力・判断力・表現力の育成につながる授業の実施に向けて、その指導方法の研究・実践を行う。	B		
		中高一貫教育及び次期学習指導要領を見据えた教育課程の検討を行う。	B		
生徒指導部	主体的な活動の充実を図る。	部局勧誘立て看板を効率的に設置するとともに、中庭パフォーマンスを盛り上げるよう放送局との連携強化を図る。	A	A	文化祭での地域コラボ企画や、生徒会やN-Capを中心とした地域行事の参加を通して、地域連携の強化を達成することができた。学校行事や地域との連携行事に際して生徒会が主体となり、コーディネーターやファシリテーター的な役割を担い、生徒が主体的に取り組む環境を整備することができた。
		様々な取り組みや研修会(講習会)においては、実施の背景を明確にし、肯定的かつ積極的に取り組めるよう工夫する。	B		
		生徒会を通じた行事において生徒が主体的に取り組めるよう、生徒の熱意に寄り添いながら丁寧な手順を踏まえ、計画的な指導を行う。 学校行事等において地域連携を強化し、地域コラボ等の活動を活発にする。	A		
	中高一貫教育校としての系統的かつ組織的な指導を推進する。	全教職員体制で生徒の状況を観察し適切な対応を行う。	B	B	担任や教科担当、部活動顧問などと連携し、事象に応じた適切な対応に努めることができた。今後は中学校担当との更なる連携強化をすすめ、中学校の指導に関して全教職員の協力体制の構築に努める。
		担任・教科担当との連携を密にし、生徒の心的変化を見逃さない。	B		
		学齢に応じた重層的な指導をおこなう。また中学生と高校生が協同的な活動ができる環境を構築する。	B		
進路指導部	個に応じた学習指導の充実を図る。	土曜学習会や長期休業中の進路講習の内容を教科・学年と調整し、学習者起点の講座選択を実施する等個々の生徒のニーズに対応した、より効果的な学習指導を実践する。	A	A	土曜学習会や各種講習の講座分けについて教科や学年部と検討し生徒のニーズを考慮して計画・実施した。 チーム・ガリレオで学校向けSNSのEdmodoの利用を開始し、チーム内の情報や意見交換の活性化について研究を進めた。
		チーム・ガリレオでのICTを利用した学習について実践・研究を深め、生徒の実態に応じた学習指導法を工夫・改善し、学校全体の学習指導に広げる。	B		
	難関大学進学に向けた学習指導・進路指導の研究・実践を行う。	難関大学進学に向けた学習集団(チーム・ガリレオ)を充実させ、主体的・自立的に学習に取り組む姿勢をもち、挑戦し学び続ける生徒を育成する。	A	A	ガリレオの活動に対し、教員側からのアプローチを工夫し主体的な学習を支援した。1・2学年の合同になったことで生徒間の意識向上がみられた。第3学年部と連携し、センター試験や出願に向けた指導について協力して取り組んだ。
		学年会や進路検討会をとおして3年学年団と連携をさらに深め、学習指導・進路指導の協働体制を強化する。	A		
	各種模擬試験データの共有と分析を行う。	各模擬試験データを進路指導部内で分析し、情報を教員間で共有化するとともに、部長会や教科主任会で今後の進路指導についての協議・提案を行う。	C	B	分析については、協議する場の設定が十分とはいえず、来年度に向けての課題である。 FINEシステムやデジタルサービスに加え、JAPANoe-Portfolioの活用についての生徒や教職員に情報提供を行うとともに各模擬試験のデータを共有した。
		FINEシステムやデジタルサービスの活用により、学級担任・教科担当者レベルでの分析を充実させ教員集団としての情報分析力を高める。	B		

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			各 項	総 合	
保健部	健康教育を充実させる。	全学年で健康教育を実施する。	A	A	各学年で健康教育を実施することができた。次年度もさらに充実した健康教育を実施できるよう、検討を重ねながら計画していきたい。
	学校等欠席者・感染症情報システムを活用する。	収集したデータをもとに情報発信に努め、感染症等の未然防止のための取組を進める。	B	B	感染症等の未然防止のための取組を実施できた。今後も掲示物やたより等で情報発信に力を入れたい。
	生徒の主体的な活動の充実を図る。	保健委員会から、インフルエンザ等の感染症予防の取組をする。	A	A	両委員会ともに活動計画を作成して、円滑に活動できた。より活発な活動になるよう工夫したい。
美化委員会の活動の情報発信を進めるとともに、校内美化の取組をする。		B			
図書部	図書委員の活動がより充実したものになるように活動内容を見直す。	「広報」班に図書館や他の班の活動を積極的に取材させ、図書委員会だより「F. I. B」を学期ごとに発行させる。	B	A	「広報」班に図書館のイベント活動に参加した記事を書いてもらう、「イベント」班が実施した購入希望図書アンケートを参考に書籍を購入するなどして、図書委員会の活動が魅力ある図書館づくりによりつながるようにした。
		「イベント」班を通じて、一般生徒の図書館に対するニーズを探り、魅力ある図書館づくりの一助とする。	A		
	教科との連携を深め、授業での図書館利用と、教科に関連した図書の貸し出しを増加させる。	授業でより有効な図書館利用ができるように、教科との情報交換を密にする。	B	B	漫画も含めた教職員の図書購入希望を募り、授業に生かせる図書の購入を進めた。読書月間中に、新聞を扱うイベントを実施した。授業での図書館利用増に向けて、教科との連携に引き続き力を入れたい。
		新聞や教科内容に関連した新書を読ませるような仕掛けづくりを工夫する。	B		
読書活動を啓発し、生徒の目を広く社会に向けさせることにつなげる。	生徒や教職員による「ビブリオバトル」を実施し、府大会などの出場にもつなげる。	A	A	読書活動啓発の機会として国語科と連携し、「ビブリオバトル」の校内大会を実施した。その結果府大会に2名、そのうちの1名は全国大会に出場することができた。「1box」コーナーは、各教科の教員に依頼して8回入れ替えた。	
	多様なテーマの展示を行うために、「1 b o x」コーナーの作成をさまざまな教科の教員に依頼する。	A			
企画研究部	生徒・教員の人権教育の充実を図る。	教職員の人権教育研修会を適宜実施し、教職員の人権意識を高める機会を増やす。	B	B	教職員・生徒ともに、人権教育研修会や国際交流等を通して人権意識を高める機会を企画・実施できた。今後は生徒の主体的な課題発見・解決に取り組む新しい活動を検討していきたい。
		生徒の人権意識を高め、地域の企業・団体等との連携強化や国際交流を通し、生徒自ら課題の発見・解決に取り組む活動を企画・実施する。	A		
	ICTを積極的に活用する。	ホームページを再構成し、動画など新たなツールを利用した情報発信を実施する。	B	B	ホームページ再編やSNS等の更新による情報発信が全教職員体制のもとで実施できた。来年度も魅力的なコンテンツの作成を継続していきたい。

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			各項	総合	
事務部	校内の安全・安心・美化を推進する。	技術職員を中心に日を設定し、安全、美化点検を行い、事故防止、環境美化に取り組む。	A	A	ガラス破損など危険箇所においては、早急に対応することが出来た。また、他校の事例も踏まえ、危険箇所等を把握しながら事故防止に取り組むことが出来た。
		危険箇所においては、早急に改修する。	A		
		修繕、改善箇所を常時把握し、原因を探り、着手する。	B		
	中高一貫教育校の円滑な校内運営を図る。	各教科、領域との調整、協議を深め、物品購入、整備を行う。	B	B	物品購入、整備に当たり、中高の各教科、領域とより連携を深めたい。
	就学の保障を充実させる。	奨学金等の説明会を開催し、丁寧な対応をもって就学援助を助成する。	A	B	奨学金等について、適切な時期に、又必要に応じて個別に案内及び対応をおこなった。
		支援の充実に向け、生徒の実態を把握し、援助対応をする。	A		
企画研究部人権担当と連携し、各種奨学金を活用する。		B			
第1学年部	礼を重んじ、規律を守り、自立した高校生となれるよう、正しい生活習慣を身につけさせる。	規則正しい生活習慣の確立のために、未来手帳を積極的に利用して先を見通す意識を持たせる。	B	B	手帳に連絡事項等をメモする習慣はついてきたが、ポートフォリオも含め日々の成果を細かく記録していく指導は継続して必要である。あいさつできる生徒は多いが、主体的に行動する姿勢をさらに身につけさせていきたい。
		挨拶を励行し、高校生として有るべき姿を、折に触れて生徒に語りかける。	A		
	主体的に学習に取り組み、より高い目標に向かって日々学習に取り組む習慣を身につけさせる。	授業を大切にさせると共に、模擬テストを利用して発展的な学習を自ら行う手助けをする。	B	B	主体的に学習に取り組む姿勢を身に着けさせるために、教員からどういう働きかけをしていけるか検討の余地がある。模擬テストの復習について、発展的な学習につながる仕掛けも必要である。
		進路指導部と連携して、自分の進路について考える機会を設けると共に、毎学期1度は面談を行い、その意識を高めさせる。	A		
	学校行事に積極的に参加することで、学校生活を充実させる。	文化祭、体育祭を初めとした学校行事への主体的な参加を促し、成就感・達成感を味わわせる。	A	A	行事に積極的に取り組む姿勢が見られ、クラスの一体感を得ることができた。学年主体の取り組みとして、本年度は球技大会を行い、生徒の自主的な取り組みを促すことができた。
		学校行事や日々の生活を通して、お互いを高め合える仲間作りをさせる。	A		
第2学年部	社会に通じる人として、規範意識の醸成と他者を思いやる心を養う。	集団の中の一人として自覚を持ち、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	B	B	ホームルームでSHRの大切さを指導し遅刻をしない取り組みを試みた。個々に時間を守らせる指導を行い、生活習慣を見直させる必要がある。
		挨拶の励行や、相手の立場を考え思いやりのある行動をさせる。	B		
	進路目標の決定と、希望進路実現に向かって学び続ける学習習慣を身につけさせる。	面談を通じて、模試の結果などを活用し、個々の目標を決定させる。	B	B	面談を通して、進路目標の設定や希望進路実現のために取り組むよう促してきた。継続的な面談の必要がある。
他分掌との連携を行い、LHRを通じて主体的に学習に取り組む姿勢を意識させる。		B			

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			各項目	総合	
第3学年部	一人一人の希望進路の実現を図る。	面談を各学期に1回以上行い、個に応じた指導により希望進路の実現に向けサポートする。	A	A	各担任と教科担当、進路指導部とも情報共有し、個に応じた進路指導をすることができた。
		学年全体で個々の希望進路を共有し、担任、進路指導部、教科担当者で連携する。	B		
	学習指導を充実させ、個に応じた学習内容を提供する。	授業内で個に応じた学習内容の提供をし、学習指導の充実を図る。	A	B	添削課題を中心に、個に応じた指導をし、生徒の学習に対する主体性を重視した。学習指導の充実を図るとともに授業を大切にすることのできる学習内容を提供していくことが大切である。
		ガリレオ講座を設置し、難関大学に向けた効果的な学習・進路指導を展開する。	B		
	最高学年としての自覚を持ち、自立的に行動できる、人間性豊かな生徒を育てる。	社会に必要なマナーや礼儀を身につけさせるとともに、他者を思いやる心の大切さを説く。	B	B	服装等の乱れもほぼなく、マナー、礼儀は身につけてきた。引き続き、他者を思いやる心の余裕を持てるよう指導していきたい。
		学校行事を通して、企画力、コミュニケーション能力、人とつながる力を身につける。	B		
サイエンスリサーチ科	サイエンスⅠ・Ⅱ・研究を、より生徒の主体的な探究活動として後押しし、探究内容のレベルアップを図る。	教科主任を中心に各教科と連絡を密にとり、全校体制で取り組む。	B	B	2年生は、11月初旬のポスター発表以降、研究内容の深化、外部への発表や活動に積極的に取り組める流れとなった。また、1年生は、研究テーマを検討するにあたり、必要に応じ、大学や学研都市の研究施設等との連携も視野に入れ取り組めた。
		大学や関西文化学術研究都市の研究施設等との連携を図り、より深い取組の内容とする。	B		
		探究活動の成果を研究会や学会等の外部の場で発表する。	B		
		学年の垣根を越えた交流を積極的に持ち、学び合いの効果等も活用し、主体的な探究活動を後押しする。	B		
附属中学校	学習指導の充実を図る。	主体的に対話的な深い学び、ICT機器を活用した効果的な学習方法の研究を行い、授業実践を地域・保護者に公開する。	A	B	授業形態の工夫や、ICT機器の活用などにより生徒の主体的な学びを実践できた。授業実践の公開を今後は地域などにも広げていく必要がある。
		学習指導要領改訂を見据えた教育課程の検討・改善を行う。	B		
	生徒の主体性を育む取組を充実させる。	関西学術研究都市を中心に外部機関と連携を取り、学校外での生徒の新たな活動の場を設ける。	A	B	学研都市や様々な外部機関と連携して学習活動を進めることができた。来年度以降の道徳の教科化に向けた計画を整備することができた。
		学校行事などの取組計画を具体化して実践し、その検証結果を次年度の計画に活かす。	B		
		道徳の指導内容の研究を行う。	B		
	校務の円滑な運営を行う。	各部における中学校に関する校務分担を整理し、校務の円滑な運営を行う。	B	B	中学校担当者会議を中心に、各部と連携し、課題を解決することができた。
		中学校担当者会を毎週開催し、中期的な計画を共有しながら校務を進める。	B		
		ICTを活用した校内情報共有システムを活用して情報交流を行い、校務の効率化を行う。	B		

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			各項	総合	
国語科	生徒の幅広いニーズに対応するため、組織的な教材研究・指導法研究を行い、授業を充実させる。	クラス・個人の実態を把握し、教材・課題ごとに、何に重点を置いて指導するのかを担当者で共有し、教員間の連携を密にして指導を行う。	B	B	教材・課題ごとに、重点を明確にして指導できた。模擬試験の結果をより有効に授業にいかせるようにしたい。
		模擬試験等の結果を分析し、生徒の持つ課題を明確にして指導を行う。	B		
	生徒の主体的な学習を促し、難関大進学も視野に入れて学力を向上させる。	基礎的な国語力を定着させるとともに、生徒の知的好奇心を高める授業を展開し、主体的な学習に導く。	B	B	主体的な学習に向かわせる授業づくりを研究する必要がある。
		個々の教員が難関大学等の入試問題を研究し、教科会議等を利用して成果を共有して、指導に生かす。	C		
	読書習慣を定着させ、様々な文章に触れる機会を設け、生徒の視野を広げる。	授業で図書館を利用する。図書館を活用できる課題を設定する。	C	B	授業で関連書籍を紹介したりピブリオバトルを行ったりした。図書室を活用できる課題設定の仕方を研究する必要がある。
		授業で扱った作品の作者に関連した書籍を紹介する、ピブリオバトルを授業に取り入れるなどして、生徒の読書の幅を広げる。	A		
地歴・公民科	多角的な評価の在り方について検討する。	世界史A・日本史Aにおける主体的・対話的学びの評価方法について検討し、規準を策定して教科で共有できるものにする。	B	B	今年度実施したA科目における「主体的・対話的な学び」の評価基準について、教科会議内で共有し議論する機会を設けた。今後も更に適切な評価になるように議論し続ける必要がある。
		あらゆる生徒の主体的・対話的な学びの活動を多角的に評価に繋げることのできるシステムを検討する。	B		
	附属中学校の教育課程について検証・改善を行う。	附属中学校において実施された教育課程について随時検証し、臨機応変に対応していくとともに、次年度以降に向けて改善の方策を考える。	B	B	附属中学校の授業を教科内で見学する機会を設けた。また今年度実施した教育内容を共有、検討する機会を教科会議内で設けた。今後も高校の指導内容との整理・統合を図り議論し続ける必要がある。
		附属中学校の教育課程について、今年度の状況も踏まえながら、高校の指導内容との整理・統合を図る。	B		
	新しい学習指導要領や大学新入試を踏まえた授業改善を行う。	新入試の傾向を教科会議で分析・共有し、指導内容を検討する機会を学期ごとに設ける。	C	B	新入試へ向けての指導内容の検討は今後深めていく必要がある。生徒の進路希望に応じた個別指導を実施することができた。ICTの活用は少しずつ進んできている。今後も実践内容を共有し、適切な活用方法について議論し続けていく。
		進路指導に際して、生徒の志望を踏まえて、個に応じた指導を推進する。	B		
		ICTを活用した授業の実践を推進し、実践内容を共有、検討する機会を学期ごとに設ける。	B		

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			各項目	総合	
数学科	個々の数学力を高める指導方法を確立する。	個に応じた適切な学習指導を行うことで、基礎的な数学力を定着させるとともに、知的好奇心をくすぐるなど、個々の数学力がより向上するような高度で格調高い授業を展開する。	B	B	課題の設定や個別添削など個々に応じた適切な学習指導を行った。主体的に考える力が身につくような問いかけを授業や講習、試験問題を通して行った。
		希望進路に応じた課題設定を行うことで、計算力及び論理的思考力、記述力を養い、希望進路が実現できる数学力を培う。	A		
	数学を楽しみ探究する精神を育成する。	効果的にICTを用いることで、個々の生徒の数学力が向上するような教材及び主体的に授業に参加できる教材の開発を行う。	B	B	京都・大阪数学コンテストや数学検定等へ多数参加した。各教員が必要に応じて、ICTを活用した授業を行った。今後はICTを活用した授業を相互に見学するなど共有できる仕組みを構築する。
		京都・大阪数学コンテストを始めとするコンテスト及び数学検定等へ生徒が主体的かつ積極的に参加するような学習指導や、数学の魅力・面白さが伝わる仕掛けを行う。	A		
	中高一貫を見通した指導体制の充実及び教科指導力を向上させる。	6年間を見通した授業の進度及び指導方法について、同じ講座を担当する教員が交流する場を週1回以上設定するとともに、相互に授業見学を行うなど開かれた授業を目指す。	A	A	中高のそれぞれの進捗状況の確認等を適宜行った。各教員で難関大学を中心とした入試問題研究を行った。講習で扱った問題は共有できるようにしており、よりデータベース化を進めていきたい。
		個々の教員が難関大学を中心とした大学別及び分野別の入試問題研究を行い、その成果を教科で共有する場を適宜設定し、難関大学進学に向けた進路指導に活用する。	B		
理科	個々並びに組織的な教科指導を向上する。	中高一貫教育の中高6年間の教育課程を実践し、組織的な指導体制の構築をはかる。	B	B	ダ・ヴィンチやサイエンスの活動では、企業や大学との新たなつながりができた。今後は研究内容の質のレベルアップに取り組む必要がある。教科担当者間で情報を共有し、復習テストや復習課題を取り入れるなど、生徒の実態に応じた取り組みができた。
		サイエンスの活動や附属中学校におけるダ・ヴィンチの取組、コンテスト等への参加を通して、地域の企業や大学とのつながりを生徒自ら開拓し、主体的に学ぼうとする姿勢を身につけさせる。	A		
		科目主担当を中心にして生徒学力や模擬試験等の課題を担当者間で共有し、教材や指導法などを改善し、進学指導の向上を図る。	B		
	新学習指導要領に向けたICT活用の充実を図る。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に効果的なICT活用を進め、情報を教科内で共有する。	A	B	ICTの整備が行われつつあり、それに応じてICTを活用した授業を積極的に進めることができた。今後はさらにその内容の精度を高めていく必要がある。
各分掌・事務部などと連携して、効率的にICT環境整備を進める。		B			
保健体育科	卒業後も豊かなスポーツライフを実現する資質を育てる。	自己の体力の状況を把握し、体力向上の方策を考え実践させる。	B	B	新体力テストの結果から自己の体力課題を見つけ、運動に取り組む態度を養うことができた。選択したスポーツ種目の楽しさを深めながら体力や技能の向上を図る高校生期のスポーツライフを充実させる指導を推進したい。
		運動の場面で、公正、協力、責任、参画に対する意欲を高める態度を養う。	B		
	現代における健康課題について知識、理解を深める。	課題学習の研究を進めるにあたり、現代における健康課題を幅広く見つける視点を養う。	B	B	保健授業において、身近な健康課題を取り上げるなど課題学習に取り組み、知識・理解を深めることができた。
		薬物乱用について正しい知識を身につけ、適切な行動をとることができる態度を養う。	B		

A:十分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
			各項目	総合		
芸術科	一般教養としての芸術の基礎・基本を把握させ、芸術を追究する態度を育てる。	中学校との関連をふまえ、表現や鑑賞の基礎・基本的事項をしっかりと把握させる。	B	B	中学校の学習内容との関連をはかり基礎的な技術技能の向上ができた。 多角的視野に立ち芸術を追究する態度の育成ができた。 今後も生徒自身が生涯にわたり芸術を志向する心情を育てる学習活動を展開できるよう努める。	
		鑑賞や制作・発表を通して、幅広い芸術の表現方法について理解を深め、芸術を追究する態度を育てる。	B			
		表現や鑑賞の学習を通して、多様な芸術についての見方・考え方・とらえ方(思考力・判断力・表現力)を学び、芸術を愛好する心情を育てる。	B			
	基本的な表現技法、演奏技能を育てる。	基礎・基本的内容の整理と多様な表現について研究し、技能を育てる方法について研究を深める。	B	B	我が国の伝統的な芸術文化に触れ、多様な作品を鑑賞することができた。 基礎・基本的な内容をふまえて自らの作品を根拠をもって批評することができた。	
		日本の伝統的な芸術と西洋の伝統的な芸術の類似点や相違点を感じ、自ら表現することができる力を養う。	B			
		言語活動の拡充を図り、自らの言葉で諸芸術を批評できる心情を育てる。	B			
	よりよい授業に向けて教材開発・研究を行う。	研究授業や互見授業週間、研修会等を通して、教授方法などを研究し、授業改善に努める。	B	B	研修会や研究授業の機会に恵まれず思うような授業改善をなし得なかった。 今後は積極的な授業改善に努める。 芸術展・演奏会を開催し芸術三科相互の関係を密にできた。	
		多角的視野に立脚したアプローチで学習者の知的好奇心に迫る授業に努める。	B			
		多様な芸術について理解を深めさせるための鑑賞教材を研究し、その充実に努める。	B			
	英語科	基礎学力を定着させ、希望進路の実現に向けて生徒に学力の伸長を実感させる。	特に初期の段階で学習の仕方を具体的に指導し、適切なレベル・量の課題と小テストを与えながら、授業や家庭学習に取り組ませる。	B	B	担当者間の連携により、同科目でのプリント教材や進度、インプット・アウトプット活動等の内容をほぼ共通で授業を進めることができた。テストや提出課題だけでなく、日常的に家庭学習に取り組ませる指導に対して、さらなる工夫が必要である。学力差の拡大に伴い、レベルに応じた個別指導をさらに充実していかなければならない。
			同科目の担当者間の連携を密にし、どのクラス・講座においても教材や活動等を可能な限りそろえて、学年全体のレベル(模試やGTECの平均点偏差値等)をアップさせる。	B		
			生徒個々のレベルと目標に応じた指導をより効果的にするために、授業内容を定期的に見直しつつ、個別指導を可能な限り取り入れる。	B		
英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。		授業に「読む」「聴く」「書く」「話す(やりとり・発表)」の4技能5領域を取り入れ、生徒が英語を使う量を増やし、後に英語が定着していくような指導案を工夫する。	B	B	4技能5領域の「話す(やりとり)」を実践するまでには至らず、今後の指導計画を工夫する必要がある。AET2人体制に伴い、TEAM-TEACHINGにおける授業内容がさらに充実したものになった。生徒が英語によるスピーチやプレゼンテーションをより積極的に行うようになり、授業以外でも英語を使用する機会が増えた。外部検定の導入やセンター試験に替わる共通テストのリスニング配点の増加に向けて、発音指導や音読指導を中心に、4技能をバランス良く伸ばしていく授業を教科全体で目指していかなければならない。	
		留学や海外の高校生との交流等、英語によるコミュニケーションを実践する機会に対する生徒の意欲を育てるように、team-teachingやペアワーク・グループワーク等を活用する。	A			
		授業で扱った内容に対して「自分はどう思うのか」を常に意識させ、英語のスピーチやプレゼンテーションによって発表したり、英語で書いたりする機会を確保する。	B			

A:十分達成できている。B:ほぼ達成できている。C:達成できているとはいえない。D:ほとんど達成できていない。

平成30年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			各項目	総合	
家庭科	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、よりよ生活の実現を目指す。	実践的・体験的な学習活動を通して、知識や技術の定着を行う。	B	B	ものの見方や感じ方、捉え方を大切にする授業展開に努め、実践的学習を効果的に取り入れ、生活的課題の解決に努めた。高校生については、新学習指導要領を視野におきながら、防災に関する取り組みを行った。次年度に向けて、より充実したものにしていきたい。
		家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を通して課題を解決する力を養う。	B		
		家庭や地域での実践活動や年間を通した継続的な実践活動を行う。	B		
	中高一貫教育の円滑な実施と6年間を見通した指導の準備を進める。	特に中学校についての研修を深める。	B	B	授業の進行や考査、評価において、技術の担当者と調整、連携を図りながら行うことができた。授業については、Panasonicの研究について、風呂敷の取り組みを通じて協力することができた。今後も、教科として関わられることを模索していきたい。
	他校や他教科の指導法から学ぶとともに、客観的な視点を大切にする。	B			
情報科	情報について科学的な見方や考え方を養い、活用できる知識や技術を身に修得させる。	情報の科学的理解と、情報の収集、分析、活用、発信等の実習を通して、問題の発見とその解決の方法を習得する。	B	B	情報を科学的に理解させ、それを有効に利用できる技術や考え方を身に着けさせることができた。また、問題が発生した場合の解決方法など学ばせた。
		将来、必要とされるコンピュータリテラシーを習得させる。また、プレゼンテーション実習等を通じてコミュニケーション能力を養う。	B		
	情報倫理を身につけ、情報社会に積極的かつ公正に参画する態度を育てる。	インターネット、電子メールや携帯電話などの利便性と信憑性・危険性を理解、把握させる。	B	B	情報機器の利便性を理解させるのと同時にその危険性をも理解させることができた。また、著作権について詳しく学び、その保護の重要性を学んだ。
		著作権保護の重要性を理解させる。	B		
教員の指導力を向上させる。	情報に関する最先端の内容の研究と指導法の研修を継続的に行う。	B	B	プログラミングを授業内容に取り入れることを目的として研修および研究を行った。	

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の内容はおおむね妥当である。 生徒の主体的な活動を促すさまざまな教育活動を進めることができています。文化祭の一般公開や地域の行事への生徒の参画等、地域に開かれた学校作りが進んでおり、地域活性化にも貢献している。 学校アンケートの結果から見るに、生徒の学校生活全般において落ち着いた環境となっているようであり、評価できる。 附属中学校では、中学と高校のボーダーを設けず、教育活動を充実させていくスタイルが、よい流れを生み出せている。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様々な学びのニーズに合わせて、また、持続可能な教育体制の構築に向けて、ICTの利活用についての研究を進めながら、いっそうのアダプティブラーニングの推進を行う。 生徒の主体的な学習を促しながら、学力の向上を図り、さらに高みに挑戦する意識を目覚めさせる授業のあり方について、教科を越えて研究・研修する体制の確立を目指す。 国際交流の推進や地域の研究機関等との継続的な連携を通してさらなる教育活動の充実を図り、高い哲学的視座に立った学術的グローバルリーダーの育成に力を入れる。
---------------	--

A: 十分達成できている。 B: ほぼ達成できている。 C: 達成できているとはいえない。 D: ほとんど達成できていない。